

1. 地域の特徴



五箇山合掌造り集落 (相倉)



散居村が広がる風景

- **人口：47,252人** (2023年6月末時点 住民基本台帳)
 高齢化率：38.9% (2021年9月末時点)
 ⇒全国平均と比較すると約 9.8 %、富山県全体と比較しても約 6.2 %高い
- 2004年11月に**8つの町村が合併**して誕生
- **面積：668.64km²**のうち約**8割が森林**であるなど、豊かな自然に恵まれている
- 地形は標高50mから1,800mまでの高低差があり、山間部には世界遺産となっている**合掌造り集落**、平野部には日本の原風景といえる**散居村**の風景広がっている

2. 応募のきっかけ

南砺市では、2013年に基本理念を「**小さな循環による地域デザイン**」と掲げる「**南砺市エコビレッジ構想**」を策定しており、本構想では、**自然と共生し、環境への負担が少ない暮らしを営み、お互い様の支え合い社会や地域の自給率と自立度を高めて安心して暮らせる社会の構築**を目指している。地域資源を活用した再生可能エネルギーの活用などの6つの基本方針を示し、広い市域に点在する人や産業、資源をしっかりと使って、**地域資源（人、物、自然、文化、お金）の循環と交流、自立による持続可能な地域づくり**に取り組んできた。

これらの取り組みの方向性はSDGsの理念と一致しており、今後想定される地域課題を解決するため、エコビレッジ構想をさらに深化させるためのセカンドステージとして、SDGs未来都市計画に取り組むこととした。

【今後想定される地域課題】

分野	根幹となる課題	各分野固有の課題
経済	人口減少 少子高齢化 若者世代の転出	<ul style="list-style-type: none"> ・就業人口の減少 ・経済成長の鈍化 ・伝統産業の衰退
社会	↓ 若い女性の減少 (子どもの減少に直結)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、交通インフラなどの住民サービスの縮小、廃止 ・集落(支え合いの基盤)の弱体化
環境	気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業の担い手不足 ・森林の荒廃 ・不在地主の増加

3. 取組の内容と成果

経済面での取組

伝統ある地場産業とコンテンツ産業による地域経済の活性化

■ クリエーター育成マッチング事業



■ 「オーガニック街道」の整備



■ 伝統産業のリデザイン
「南砺ブランド商品開発支援」



■ 森林資源を活用したビジネス再生



社会面での取組

地域の伝統文化と“南砺らしさ”を正しく継承し、全ての人々が健康で安心して暮らせる社会の構築

■ 地域の助け合いを育む
「地域包括ケアシステム」



■ 世界遺産合掌造り家屋の保存、茅場再生



■ 小規模校や複式学級すべての人に教育を
「学校間をつなぐ遠隔協働学習事業」



■ 新たな暮らし方の提案
「エコレッジ住宅ゾーン事業」



環境面での取組

豊富な地域資源を最大限活用した循環型社会の形成

■ 森林資源エコシステム構築事業



■ 森里川海の連携
「マイクロプラスチック、海洋汚染抑制」



■ いのちの森をつなぐ次世代人材の育成
「森の学校」「森の保育園」事業



三側面をつなぐ統合的取組

■ 文化と教育の連携（文化芸術創造都市）「南砺の土徳文化は一流の田舎につながる」



■ 住民自治の再構築「小規模多機能自治」

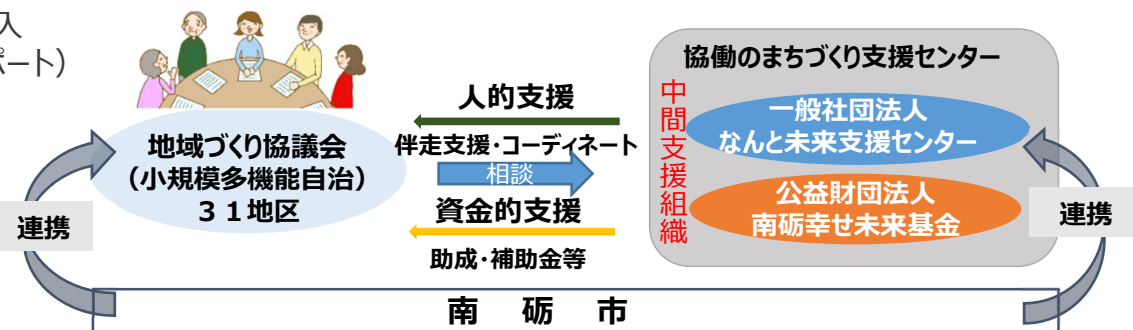


■ コミュニティファンドの創出「南砺幸せ未来基金」



3. 取組の内容と成果

- ① **小規模多機能自治**が全自治会（31地区）に導入
（上手く機能するよう、なんと未来支援センターがサポート）
⇒**地域住民自らが地域課題を見つけ、課題解決に向けて事業実施**
- ② 地域課題を解決して住みよい地域をつくらうとする住民を資金面で支え、やりたいことが実現できるよう**南砺幸せ未来基金**がサポート
 - ▶ 基金への寄付金総額：2,000万円以上
 - ▶ 助成団体：30団体以上



【地域課題解決に向けた取組事例（未来基金による助成事業を活用）】



地域の子どもから大人まで集まれる居場所として「ブック∞カフェすけろく」を開設



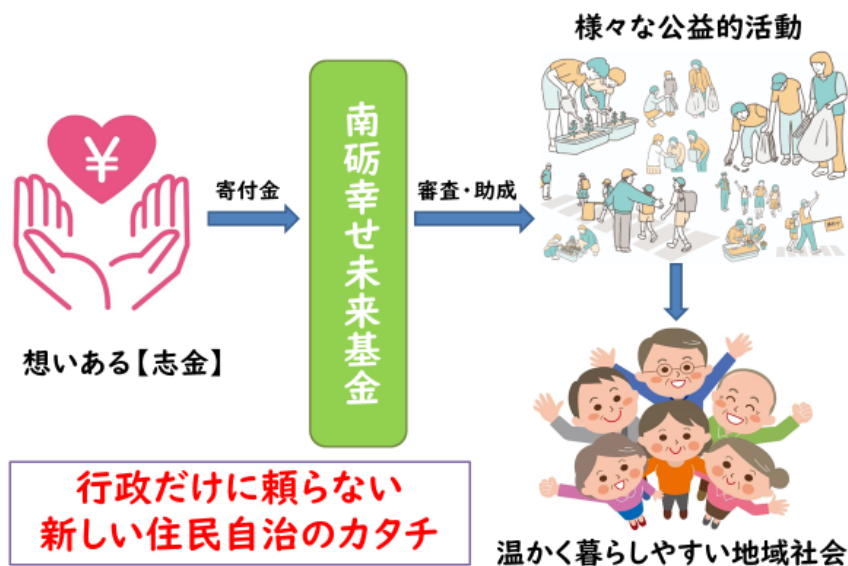
要支援者宅道の除雪



外国人コミュニティへのコロナ対策支援



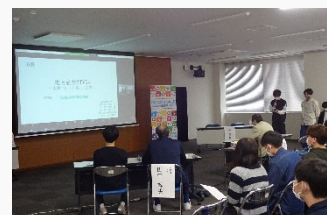
シニアカー自動運転まちなか実証実験



4. 選定されてよかったこと

SDGs未来都市に選定されることで、SDGsに率先して取り組む都市として対外的に認知され、大学や企業等との連携事業が進んだ。

- ▶ 富山国際大学
現代社会学部1年生対象の授業「地域づくり実習」を南砺市で実施
- ▶ 富山県立大学
「なんとSDGsボードゲーム」の共同制作
- ▶ (株)富山銀行
協働で南砺市版SDGsロゴマークの制作
- ▶ 北陸コカ・コーラボトリング(株)
SDGs自販機の設置
- ▶ となみ青年会議所
協働でSDGs啓発事業の実施
- ▶ (株)ゴールドウィン
「PLAY EARTH PARK」事業予定地として選定



地域づくり実習



なんとSDGsボードゲーム



SDGs自販機

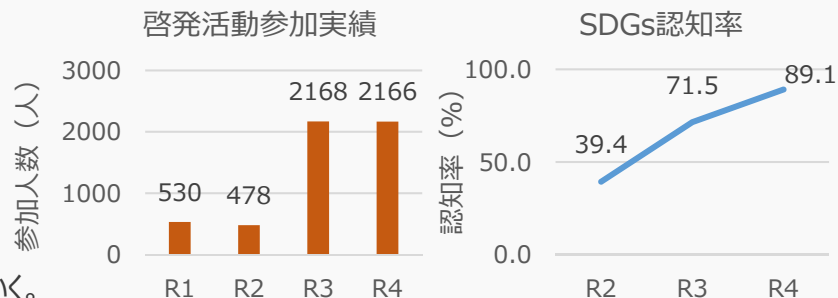


「PLAY EARTH PARK」事業予定地
桜ヶ池モデル地区

5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

・市民のSDGs意識（＝地域への関心）の低さが課題であったが、市民への普及啓発としてSDGsの出前講座やブース出展、SDGsカフェ等に、細かなPR活動やニーズに寄り添った実施などに配慮して取り組んだ結果、学校や地域、団体、企業からの依頼が増加し、着実に市民のSDGs意識が向上している。

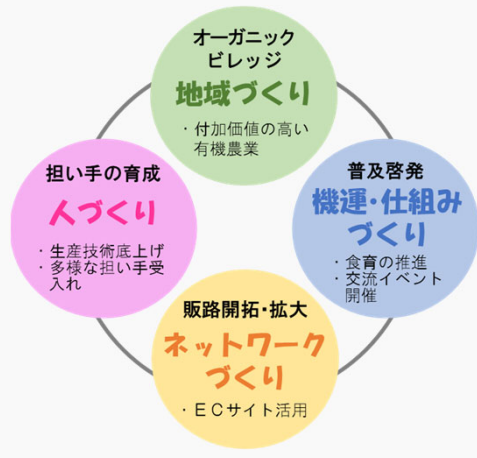
・SDGsの実践として、まちづくりへ参加する人の割合は半数に達していない状況（市民意識調査結果）であるので、実践例の紹介や実践につながる活動の情報提供など引き続き啓発活動を実施していく。



6. 今後の展開

■ 経済

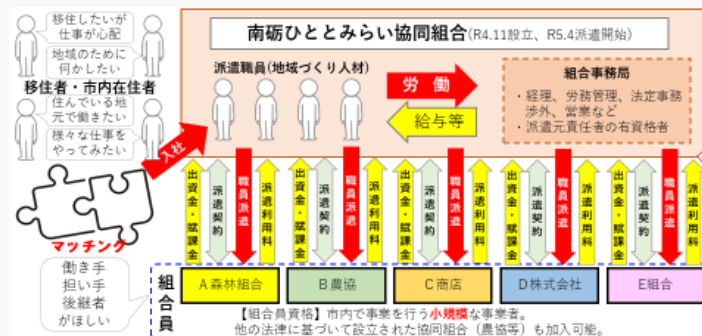
南砺市オーガニックビレッジ構想の実現に向けた取り組み



■ 社会

特定地域づくり事業協同組合による担い手不足解消

季節によって忙しさに偏りのある市内の仕事を集めて、移住された就労希望者などに、年間を通して安定的な就業先を提供。



■ 環境

地域エネルギー事業の推進

地域新電力会社：(株)なんとエナジー

- ①【脱炭素化促進】
2050年までの脱炭素社会実現に向けて再エネ導入の拡大へ取り組む
- ②【再エネ地産地消】
再生可能エネルギーの地産地消と域内経済循環、地域の自立へ取り組む
- ③【地域課題解決】
南砺幸せ未来基金等への資金支援により地域の課題解決や活性化を促進

7. 他地域への展開等

南砺幸せ未来基金の取り組みの他地域への展開について

・当財団が実施する休眠預金活用事業は、他地域のコミュニティ財団とコンソーシアムを組んでおり、共通した課題を持つ地域の財団が連携することで、解決のためのアプローチ方法やノウハウを他地域へ共有・展開を図る。

- ▶ 2020、2021年度 休眠預金活用事業（3団体でのコンソーシアム）
（公財）南砺幸せ未来基金＜富山県南砺市＞、（公財）うなんんコミュニティ財団＜島根県雲南市＞、（公財）東近江三方よし基金＜滋賀県東近江市＞
- ▶ 2022年度 休眠預金活用事業（2団体でのコンソーシアム）
（公財）南砺幸せ未来基金＜富山県南砺市＞、七尾未来基金設立準備会＜石川県七尾市＞

8. その他

